

当センターで口蹄疫発生を想定した実地演習を実施

12月16日、当センターで、広域防疫対策センターと協働で、「口蹄疫実地演習」を開催しました。牛飼養農家で口蹄疫を疑う事例が確認された段階の設定で、当センターや家畜保健衛生所等の家畜防疫員12名が、ウイルスを封じ込めるため、牛舎や敷地周囲を消毒し、防鳥獣ネットやシート等で囲い込みを行いました。

韓国では、口蹄疫が続発・拡大しており、参加者は緊張感たどよう中で、作業手順やチェックポイントを確認しながら、迅速に囲い込みを終了しました。



牛舎入口の通路に囲いを設置するため支柱を建てる



牛舎側面の開口部を防鳥獣ネット、コンパネ、ブルーシートで封鎖



牛舎の囲い込みと敷地の消石灰散布が完了



牛舎全体を覆うため屋根の上からブルーシート(10m x 30m)を垂らす

基肥に発酵鶏糞を施用した飼料米の収量調査結果を報告

- 飼料米タスクチームの取組 -

12月13日、福知山市で、農林水産技術センターと農業改良普及センターのタスクチームが、生産者を交え、保全管理田に発酵鶏糞を基肥として施用し飼料米を生産する取組みの検討会を開催しました。5月に播種した飼料米の生育は良好で、収穫前の10月に行った坪刈り収量は、標準区(発酵鶏糞:400kg/10a)で840kg/10a、1.5倍区(同:600kg/10a)で880kg/10aとどちらも良好な成績となりました。

生産者からは、来年度も飼料米の栽培を継続したいとの意向が聞かれました。



タスクチーム員から生産者へ飼料米の収量調査結果等を報告

広域堆肥センターに畜産センター方式の脱臭装置を設置

南丹地域の広域堆肥センターでは、牛ふんや豚ふんを堆肥化する際に発生する臭気を軽減するため、当センターが開発した脱臭装置の設置工事が始まりました。府内で5例目の実用化ですが、これまでにない大規模なものであり、完成後は、脱臭効果を確認しながら、脱臭能力が十分に発揮されるように装置の効率的な管理・運転指導を行い、周辺地域の生活環境の改善に努めます。

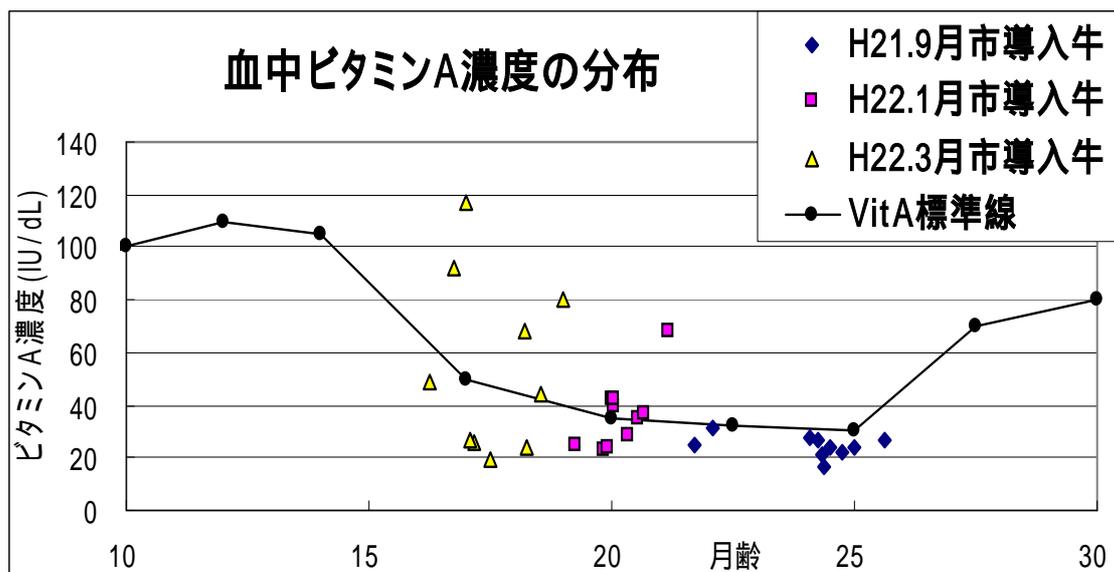


堆肥化施設の横に設置中の脱臭装置の脱臭槽（土台部分）

肥育牛の飼養管理技術を検討

12月21日、中丹管内の肥育農家において、家畜保健衛生所、飼料会社とともに、飼養管理技術の現地検討会を開催しました。

当センターが、定期的に測定・分析している肥育牛の血中ビタミンA濃度やコレステロールなどの値をもとに行った検討結果により、給与飼料内容などを改善したことから、特に、肉質に影響を与える血中ビタミンA濃度の推移が、理想的な数値に近づいたことが確認され、肉質の向上が期待されます。



肥育農家での飼養期間が長くなるにつれ、血中ビタミンA濃度は標準曲線に近づきバラツキが少なくなっています。(子牛せり市での導入ごとに10頭を定期的に測定)

乳牛の改良を支援

- フィールドと畜産センターで受精卵採取 -

当センターでは、酪農家で飼養している乳牛の受精卵を現地で採取しています。この取り組みは、牛乳を沢山搾れる能力の高い牛の子孫を受精卵移植技術を活用して、沢山誕生させることにより、酪農家の経営向上を目指すもので、当センターの高能力牛の受精卵譲渡と併せて、乳牛の改良を支援しています。

今月は、酪農家で7個(1頭)、当センターで18個(3頭)の正常卵を採取しました。



バイオカウライナーで農家
に出向き受精卵を採取



畜産センターの高能力牛

畜 産 セ ン タ ー

乳房炎対策の巡回調査・指導を実施

乳牛が乳房炎に罹患すると、健康状態が悪化するだけでなく、牛乳の品質が低下して出荷できなくなります。今回、乳房炎罹患牛が少ない優良農家と、多い農家の飼養管理や搾乳方法の違いを確認するため、巡回調査を行いました。

優良農家では、泌乳していない期間も含めて、異常を早期発見するための観察や、予防のための乳頭保護などの衛生対策がとられていました。乳房炎罹患牛を多く抱える農家には優良事例を伝え、改善方法について指導しました。



現地での管理状況を聴き取り

子牛育成マニュアルの現地研修会

京都府では、関係団体とともに、和牛子牛の飼料給与方法などをマニュアル化し、肥育農家が飼いやすい子牛づくりを目指しています。

12月9日、京丹波町の農家で「子牛育成マニュアル」の研修会が開催され、当场からは、マニュアルどおりに子牛を育てた実証試験の成績を解説しました。

このマニュアルで育てた子牛の認証制度が検討されており、農家の期待がふくらんでいます。



マニュアルの説明を受け自分の育成方法との違いを確認する参加農家

冬本番を前に、雪に備えて冬支度

- ふれあい施設の閉鎖と除雪出動 -

当场では、積雪が2 mを越えることがあり、大雪に備えるため、12月14日、ふれあい広場のヤギやヒツジ、ウサギなどを冬季畜舎に収容し、畜産資料展示施設の「まきばホール」とともにふれあい施設を閉鎖しました。翌日は、朝から降り始めた雪が、積雪10cmを越えたので、この冬初めての除雪を行いました。



ケージ飼育で春を待つウサギ



牧場周辺の林道をロータリで除雪

畜産センター
碓高原牧場